

令和7年度 第3回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録

■日時:令和7年10月14日(火)18時30分～

■会場:オンライン(Zoom)

1. 報告事項

- (1) 業務月次報告(資料1)
- (2) ボランティアコーディネータ状況等月次報告(資料2)
- (3) ボランティアコーディネータ実績表(資料3)
- (4) 業務予定(資料4)

○事務局より、(1)～(4)について資料を用い説明を行った。

【委員長】質問はあるか。無いようなので議事をすすめる。

2. 審議事項

- (1) 令和7年度第2回運営委員会要点記録(未定稿)について(資料5)
- (2) 夏!体験ボランティア2025の報告について(資料6)

【事務局】申込者数は161名で昨年度のおよそ1.5倍であった。居住地の内訳は西東京市が一番多いが近隣市や遠方からも来ている。参加者の区分は小・中・高校生の中で高校生が一番多い。夏休み期間ということもあり学生を想定しているが社会人の参加も増えている。活動先は受け入れ総数が多い保育園が一番多く、次いで高齢者施設など高齢者に関わる活動が多かった。「夏!体験ボランティア」を知ったきっかけではホームページを見たという人が一番多かったが友人、知人からの紹介で一緒に参加をする人も多かった。活動後のアンケートでは、やってみたいボランティアの項目では福祉関係をあげている人も多いが、保護猫のボランティアという意見もあり今回も保護猫のボランティアは人気があり早々に定員に達してしまった。今回選択肢にはなかったが学校でやってみたいという意見もあった。今後もボランティアをやってみたいかという問いにはやりたいと思うと答えた人が最も多く、次いで仕事や学業などの事情があり難しいと答えた人がいた。やりたくないという答えはなかった。

【委員長】質問はあるか。

【副委員長】ちらしや広報紙を見て申し込んでいる人もいるが、以前申し込んだ方にお知らせしているのか。

【事務局】例えば昨年の参加者に対し個別に案内を出したりはしていない。

【副委員長】ちらしやホームページで新たに募集をしているということか。過去に参加した人たちにこちらから知らせることはしていないということか。

【事務局】同じタイミングで広報している。昨年参加したので今年も参加するという人はいる。特別な告知はしていない。

【委員長】申込者数が増えているが、どの層が伸びているのか。昨年度との対比できるものがあると解釈できる。

【事務局】昨年の参加者数を見ると今年度の中学生、高校生は2倍になっている。社会人も増えている。

- 【委員 長】最初の報告だと社会人の伸びにフォーカスされていたが、今の補足で中学生、高校生の伸びに勢いがあるのが分かる。
- 【事務局】委員に伺いたい。他の地域の状況を聞きたい。
- 【委員】全地区の状況を把握していないが、担当地区の増減はそれぞれで全体的な傾向はみられない。TVACでおこなっている「夏!体験ボランティア」としては昨年度より増えた。
- 【事務局】広報の仕方を変えたわけでもなく増えたということは外に出る機運が上がって来たのか推測の域を出ない。
- 【委員】高齢者施設で小学生、中学生、社会人の受け入れをおこなった。小学生はお母さんから勧められてボランティアに参加しているという意見が多い。中学生はホームページを見て参加すると思うが小学生にはちらしを配っているのか。
- 【事務局】市内の全小・中学校、高校にはポスター、ちらしを配布している。
- 【委員】全生徒に配っているわけではないのか。
- 【事務局】全生徒に配っていない。こども食堂や市の公共施設などにも配架している。
- 【委員】以前、高齢者施設の夏祭りに参加した際、中・高校生にボランティアを一緒にやらないかと誘ったことがある。来てくれた生徒たちはボランティア証明書が欲しくて参加していた。
- 【事務局】昨年からはボランティアセンターでも希望者にボランティア活動証明書を発行している。
- 【委員 長】昨年度議論の中で、証明書の発行が小・中学生のボランティアをやろうというきっかけ作りになるのではないか。また、自分の活動の証になるのではないかという意見が出ていた。何かの見返りや承認欲求を満たすことの是非ではなくきっかけになればよい。

3. 協議事項

(1) 学校向けアンケートについて

○ 資料 7 の説明を行った。

- 【事務局】市内小・中学校の内 18 校から回答があった。主に校長、副校長からの回答である。現在ボランティアの受け入れをおこなっている学校では学習支援のボランティアが多い。次いで生活支援、学校行事、イベントなどがある。受け入れをしていない学校 7 校については、何処に依頼して良いのか分からないという意見が一番多く、どのような人が来るかわからない、ボランティアセンターを知らなかったという意見もあった。今後のボランティアの受け入れについては概ね受け入れをしていきたいという学校が多い。ニーズとしては登下校の見守り、学習支援、生活支援、行事など増えている。ボランティアの受け入れについての課題、意見については、学校側の負担が考えられるという意見や、どのような人が来るのか分からないという依頼に関する懸念もあった。希望としては継続的に来て欲しいという意見があった。
- 【委員 長】確認、質問はあるか。
- 【副委員長】市内 27 校中 18 校からの回答か。回答のなかった学校にこちらから何かしたということはないのか。アンケートの中にボランティアセンターとしてできることを羅列したのか。
- 【事務局】アンケートであるため特に行っていない。できることについても羅列はしていないがボランティアセンターのパンフレットを送っている。
- 【副委員長】どこに頼んだらよいか分からない、ボランティアセンターを知らないということは残念だ。もっと広報に力を入れることが必要ではないか。
- 【事務局】そのような回答をボランティアセンターとしてきちんと受け止めなければならないと感じた。どこに頼んだらよいか分からないと回答された学校には個別にアプローチしていくことも考えられる。社協だよりも載せてきてはいるが学校には情報が届かなかったのかもしれない。

- 【委員】学習支援、生活支援とは具体的にどのような支援が必要なのか。
- 【事務局】学習支援は授業中のサポートで学校側への支援になり、生活支援は児童に対する支援となる。
- 【委員】具体的なニーズの中に西東京あったか先生とあるがそれは何か。また、回答者が校長と副校長となっているがクラスの中のニーズは届いているのか。
- 【事務局】西東京あったか先生とは「西東京市子ども条例や人権教育の理念のもと、一人ひとりの子どもたちを大切にする教育をすすめます。」と西東京市のホームページに記載があるので紹介する。アンケートの回答者について校長、副校長で十分か否かは、例えば福祉体験授業の依頼はクラス担任から入ることがほとんどである。今回のアンケートでは学校全体を見る立場として校長、副校長からの回答になったのではないかと。現場のニーズと合っているのかは計り知れない部分がある。今後、掘り下げていく必要もある。
- 【委員長】管理職の先生が回答されていると思うが、ボランティアセンターを知らないというのも個人として知らないだけで学校の担当者は知っている場合もあるのではないかと。また、返答する案件がボランティアに依頼するものなのか、専門家に依頼するものなのか、ということとどこに頼んだらよいか分からないという回答になるのかもしれない。初めての試みなので今後積み重ねていくと精度の高い回答が得られるのではないかと。今回の結果を踏まえ、具体的に詰めなくてはならないところ、必要ではないところを仕分けていくとこちらの狙いを聞き出せるアンケートになるのではないかと。1回で終わらせるのではなく定期的に色々な対象にアプローチできるアンケート、多様な声から実像を描き出せるチャレンジを今後も引き続きやっていけると良い。
- 【事務局】今回は学校へのアンケートをおこなったが、今まではアプローチをしてこなかったこともあり良いきっかけになったのではないかと。これを基に掘り下げるのか、ここから拾って行動していくのかアンケートの結果を活かしていきたい。このアンケートの目的はボランティアセンターとして学校側にどのようなアプローチができるのか、それを実現するためにおこなった。年明けにはボランティアセンターができることを学校側に提案できれば良いと考えていた。集計をする中でニーズがあることはよくわかった。学習支援や生活支援など高いニーズがあるが児童・生徒に関わる生活支援はハードルが高く、ボランティアの気持ちだけでは難しい部分があるのではないかと。検討しながらできることがあれば勧めていく。一方で登下校の見守りや行事・イベントなど短期的なニーズであれば提案できるのではないかと考える。
- 【副委員長】市内のPTAが解散、休止となり機能していない状況になりつつある。以前は育成会でもPTAや保護者の手伝いがあったが今はなくなり、ボランティアセンターに依頼するか個人で探さなくてはならないのかと話している。行事・イベントや清掃などのニーズも増えてくるのではないかとされる。学習支援、生活支援も学校運営協議会の中で誰かいないかという話は出ている。ボランティアセンターではきちんと面接もしているので問題ないと思うが人となりかわかっている人をお願いしたいということはある。小学校は割合保護者の協力を得られるが中学校は保護者が関わるのが少ないため地域の人材が頼りになっている。そのようなところに働きかければ依頼があるのではないかと。今回のアンケートは管理職が回答されたが主任教諭や学年主任にお願いすると現場のニーズが出てくるのではないかと考える。
- 【委員】質問になるが、元保育士など第一線を退いた方など何かあった時のためにどこかでプールされている機関があると思うが、一線を退いた学校関係の方で社会貢献できる人を確認することができるところは西東京市には無いのか。あればスキルを持った方に学習支援や生活支援をお願いできる人のストックができるのではないかと。
- 【委員】おそらく西東京市には無いのではないかと。保育園でも人員が足りずそのようなところに声をかけたかったが西東京市には無いと言われた。

【委員長】潜在的にスキルを持った方の組織化ができていなければ発掘していくのも一つの役割であり、発掘された側も持っているスキルを活かし、市民活動の中でニーズに対し活かせることになるのではないかと。今回のニーズと傾向を踏まえた上で、ボランティア講習会の中でスキルを習得することができるのであれば良い。また、他の事業の企画につないでいく発想も長期的に見て想定されるのか否か。連動していくと動きやすくなるのではないかと。

【事務局】例えば、すでに登録しているボランティアを対象としたスキルアップ研修を年に1回おこなっている。今年度のテーマはデフリンピックがあるので聴覚障がい者の方にコミュニケーション方法について話をしてもらうことになった。先ほどのニーズに対して支援をおこなうための研修はあったほうが良いのかもしれない。

【委員長】これまで敷居の高かった教育機関と手を結ぶ中で、ニーズと傾向を知りたい、そしてボランティアセンターを知ってもらいたいという一定の成果は果たせたのではないかと。せっかくながつながった学校とのパイプをつなぎ続けるために長期的に連動するものと、すぐに貢献できる短期的なものに分けて具体的に考えていけると良い。

4. その他

(1) 次回開催日

■日時:令和7年12月9日(火)18時30分～

■会場:オンライン(ZOOM)

配布資料

資料 1: 西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(令和7年7月～9月)

資料 2: ボランティアコーディネート状況月次報告(令和7年9月分まで)

資料 3: ボランティアコーディネート実績表

資料 4: 西東京ボランティア・市民活動センター事業業務予定(令和7年10月)

資料 5: 令和7年度第2回運営委員会要点記録(未定稿)

資料 6: 夏!体験ボランティア2025報告

資料 7: 学校向けアンケート集計